

# コロナ禍の新たな活動のカタチ

## 混声合唱団コーロ KSC

代表：友澤 一雄

昨年は、コロナ禍の下、3月2日から10月12日まで、合唱練習を含む全ての活動を停止しました。また、新入生歓迎中庭パフォーマンス、兵庫県合唱祭等のステージ、ならびに施設訪問ボランティア活動、すべてが中止となりました。

合唱団クラスター発生、東京五輪延期決定、緊急事態宣言発令(4月7日~5月6日)、コーロ KSC の練習活動再開は、コロナ感染状況を踏まえ、見送ることが続きました。

5月21日の兵庫県が緊急事態宣言解除を受け、9月の練習活動再開に向けて、6月に団員アンケートを実施しました。アンケート結果を、役員会で検討して、9月練習再開は見送ることになりました。8月ころからは、色々な合唱団の練習再開、9月から神戸シルバーカレッジの授業が再開されました。コーロ KSC も合唱連盟の「新型コロナウイルス感染症の拡大防止ガイドライン」を参考にして、練習再開要領をまとめて、10月12日から練習再開をしました。

ソーシャルディスタンスを確保して練習するため、練習会場の広さから、団員を、ソプラノ・テノールのグループ、アルト・バスのグループの2グループに分けました。また、感染の潜伏期間を考慮して、2週間間隔、マスク着用して、練習30分、換気15分とし、2グループそれぞれ1時間の練習としました。座席のセッティング、消毒に始まり、ソーシャルディスタンスを確保しての入退場、休憩中も静かな会話等々、コロナ対策をしての練習再開でした。

しかしながら、今年1月11日の練習後、兵庫県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、団員の安全確保のため、再度合唱練習を停止しました。2月27日、緊急事態宣言が解除され、3月8日から合唱練習を再開しました。

1993年発足されたコーロ KSC にとっては、経験したことがなかった1年でした。活動の再開に向けソプラノ、アルト、テノール、バスの混声4部合唱の練習が出来、ステージ演奏、施設訪問ボランティア活動の



再開に向けて、全員で注意しながら明るく楽しく合唱活動を続けてまいります。

## 太極拳ゆったり体操

代表：岸野 清美

コロナ禍で、施設訪問ができなくなり、私たち元気な者でも鬱々とした日々を過ごす中、ボランティアが来なくなった高齢者施設の方々はどうされているのか気になる、訪問はかなわずとも体を動かすことはしてほしいとの部員の思いから、ビデオ制作を思い立ちました。

練習時間が取れない中、さすが役者揃いの仲間、短時間で素晴らしいものができました。

プロ級のカメラマン、笑顔の素敵な体操のお姉さん、仕切り屋のおばさん等 NHK の体操のお兄さん・お姉さん張りのものができました。

2月に取り敢えず、「ぼー愛」「きらくえん」「パーマリー・イン中道」に届けました。



思っていた通り介護職員の皆様は激務で、疲労が溜まっているので、大変疲れておられました。利用者の方々も話を控えておられるから

かもしれませんが、静かで以前のようなにぎやかな雰囲気はありません。

「ぼー愛」で、利用者の中に若い頃太極拳をされていた方がいたのですが、私たちが訪問するととても喜んで下さり、一緒に太極拳を演舞したものです。職員の方がこの時は見違えるほど元気になるのですよと言っておられたのを思い出します。

今は施設には殆ど来られなくなったそうです。

コロナは私たち高齢者をいじめに来たのでしょうか？

緊急事態宣言が解除され、元通りの生活が戻ってくるのを祈りながら、再び施設訪問ができる日を待っています。

1つ懸念があります。ビデオで充分、訪問はもういいよと言われたらどうしよう！

